

大腸CT検査（CTC：CTコロノグラフィー）

空気で大腸を膨らませた状態をCTで撮影する検査方法です。専用の3Dワークステーションで画像解析処理を行います。内視鏡検査に比べて苦痛が少なく、短時間で行うことが可能です。

そのため、内視鏡までしたくないが、大腸がんの精査をしたいといった患者様のニーズに答える選択肢の1つになっています。

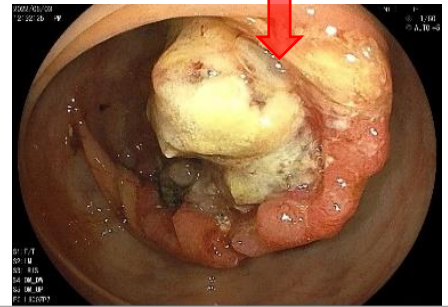
また、内視鏡より簡便にできるということで検診の大腸がんスクリーニング検査としても活用されています。

ただし、**それぞれの検査には得意・不得意があります。**医師とご相談の上、検査をご選択ください。

ご不明な点がありましたら、お気軽に病院スタッフへお問い合わせください。



画像処理の画面



内視鏡の画像（大腸がんの一例）

| 大腸CTコロノグラフィー検査 | 大腸内視鏡検査 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">●検査時間が短い（10～15分程度）●内視鏡検査と比べ苦痛が少ない●麻酔が不要●大腸の走行や病変の存在部位と他臓器との位置関係が把握しやすい。●病変があったとき、ポリープ切除や組織の採取ができない（※追加で大腸内視鏡検査が必要）●平坦な病変、小さな病変は検出しにくい●少量の被曝がある | <ul style="list-style-type: none">◆直接観察できるので、平坦な腫瘍や6mm以下のポリープなどの発見も可能で病変の検出能が高い◆大腸粘膜の色調観察ができる◆狭窄部がある場合は、検査ができない◆病変があったとき、ポリープ切除や組織の採取ができる |